発行：2021.2.1（月1回予定）

RASHINBAN

羅針盤

No.131

発行：サイクラーズ株式会社（旧名 東港金属グループ）
編集：サイクラーズ株式会社東京事務所（経営企画部）
東京都品川区南大井6丁目17番17号　FINEビル２階
電話：03-6410-8797
URL：https://www.cyclers.co.jp/

コロナ禍収束を目指し、多くの都市に非常事態宣言が出されています。働き方が多様化され、週3テレワークという会社も増えてますが、現場作業の方や医療従事者の方々の必死の働きを無にせぬよう、皆でこの危機を乗り切りましょう。

在宅勤務は満員電車利用での感染リスクは無くなり、通勤時間ゼロ、朝から快適に仕事が出来ると喜んでいる声を聞きます。この勤務形態はコロナ収束後も更に増えるでしょう。在宅勤務で懸念されるのは、自宅のデスクに一日中張り付いて運動不足という現象が起きてくることです。時間を決めて歩く、柔軟体操をする。PCに向かってばかりいると首回り、目にも負担がかかります。仕事が家で楽、終わったら家飲み、と嬉しいことばかりで運動不足にならぬよう体調管理にご注意を！

Market Forecasts　by Y. san　－2月－

1月予測の自己評価　鉄スクラップ；×　銅；○　アルミ；×

鉄スクラップ ↘

昨年末12月は12年ぶりの高値で終了し、今年の1月は東京製鉄宇都宮工場特級価格は43,000円／トンからスタート。14日からは下がり始め最終的には29,000円／トンまで下落。
輸出価格の下落が原因。
2月は湾岸の船積み価格が上がらないことや、東電の節電要請による電炉の需給緩和により、荷受け制限があちこちに出ていることからまだまだ下がると思われます。

銅 →

1月はLME7,800ドル台／トン国内銅建値840,000円／トンスタート
中国経済の回復期待から年明けすぐにLME8,000ドル／トンに達し最終的には国内銅建値も30,000円上がり870,000円／トン。
2月に関しては、円安、LME在庫減から考えると上がると思われますがメーカーの買い意欲が薄い為、買取価格は横ばいでしょう。

アルミ ↘

1月はLME 2,000ドル／トン台スタート最終的には1,900ドル台に下がりました。
2月は自動車の減産、中国塊の対日オファー価格の下落で下がると思われます。

産業廃棄物

コロナの影響で産廃の発生量が減っています。そのため1部の処分業者は処分費値下げを行っているようですが一時的と思われます。
最終処分場である埋立の処理費は下がっていない。むしろ上がっています。一時的に下がった業者に切り替えるよりは、選別強化して有価物をより多くとり、廃棄物の質をあげて安く処理したほうが良いと思われます。

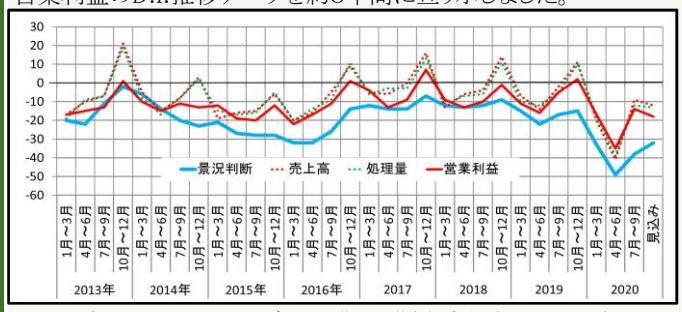
Topics

産業廃棄物処理業界 景況動向調査結果

ほぼ2年半ぶりに「産業廃棄物処理業景況動向調査結果」のご紹介です。

本調査は、景況判断、売上高、処理量、契約単価、営業利益、資金繰り、借入難易度、設備投資、従業員数について、(公社)全国産業廃棄物連合会が四半期毎に調査し公開されたものです。

その結果は「D.I.＊1」という指数化した指標を使って判断しております。次のグラフは、2013年1月からの景況判断、売上高、処理量、営業利益のD.I.推移データを約8年間に亘り示しました。



売上高と処理量は、ほぼ同じ“動き“(決定係数＊2=0.96)をしており、売上高と営業利益も、やや近い動き(決定係数=0.84)をしておりますがD.I.は共に低めを示しております。

景気判断D.I.は売上高や処理量及び設備投資とは、各々で割合に良い相関(決定係数=0.52～0.54)を見ることができます。

D.I.の定義上やはり事業成績の良し悪しが、景気判断に影響するものであろうと思われます。

2020年4月～6月期は新型コロナの影響がもろに現れておりグラフ中の8年間で最低のD.I.となっております。

従来より、これらのD.I.は10～12月の四半期に増える傾向があります。2020年10～12月の見込みでも上向きであり、今後は底値からの向上を期待しましょう。

【参考】

＊1 D.I.:Diffusion Index(ディフュージョン・インデックス)の略で、企業の業況感や設備、雇用人員の過不足などの各種判断を指数化したものです。

＊2 決定係数:二組のデータ群を直線で回帰した時に、どの程度うまく当てはまっているかの目安を表します。決定係数は0～1の値を取り、1が最も精度が高く、目安として、「0.8以上　非常に良い」「0.5以上　良い」「0.25以上　まあまあ」「0.25以下　良くない」とされております。

Series

童謡　『みかんの花咲く丘』の景色

営業部　吉永　桂子

こんにちは。東京事務所の吉永です。羅針盤への連載も今回で最終回となります。前回に引き続き、幼少期を過ごした熱海での生活についてお話を続けます。

熱海といえば『海』を思い浮かべる方が多いと思います。私も東京から越した日に、目の前に広がる海を見てとてもワクワクしたことを覚えています。ただ、毎日を海のそばで過ごしましたが、日常での遊び場はもっぱら川でした。子供だけで海岸へ降りてはいけないという、誰に言われずとも暗黙のルールがあったのです。

それでも、いくつか海での楽しい出来事がありました。ある日、海岸にイルカだったかクジラだったかが打ち上げられ、大人も子供も一緒になって引き上げたことがあります。そして解体して食べました。ワイルドですね。現代でしたら全国ニュースになってしまうところです。　そして岩場では運が良ければウニを見つけることができます。石で割り、海水で洗って食べるウニは(痩せていても)とても美味しいんですよ。

さてここからは話が変わり、海の怖さです。ある夏、たいへん強い台風がきました。小学校の体育館に避難し保護者の迎えを待っていたところ、母がタクシーで迎えに来てくれました。後日聞いたところによると、台風なのでタクシーは出せないと断られたにもかかわらず拝み倒したのだそうです。「まったく東京の人は困るね」と言われてしまったようですが、確かに、海沿いの国道へも波があふれてきていたので、タクシーもよく走ってくれたと思います。

その台風一過の翌朝、同級生の黒田君が、防波堤にいたところ波にさらわれてしまいました。一発の大きな波だったそうです。遺体は見つからず、生まれて初めてお葬式に参列しました。海は怖い面を持っていることを知りました。「お盆に海に入ってはいけない。(霊に)引かれるよ。」という話もよく聞きました。

このように色々なことがありましたが、最後に悲しい話で連載を終わるのもいけませんので、後日談を。大人になってから熱海へドライブに行き、かつて住んでいた場所を回っていたら「吉永さんですか？」と声をかけてくれる人がいました。海で亡くなった黒田君のお兄さんでした。お元気そうでうれしかったです。

熱海は東京からも近く、海あり山あり温泉あり。海の幸や花火大会もあります。コロナが収束したらぜひ遊びに行ってもらえると嬉しいです。私にとっての故郷の話でした。最後まで読んでいただき　ありがとうございました。（了）